

平成29事業年度業務の実績に関する評価結果における課題・意見への対応状況について

区分	【課題・意見が付された項目】(小項目番号) [委員会評価] 課題・意見	掲載頁	各関係部局等における対応状況
教育	【学修時間の実質的な増加・確保とその的確な把握】(No.10) [4]		
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、「学修支援アドバイザー(学生)」の育成を進めるとともに、授業評価アンケートを継続して実施することにより、調査結果の分析・検証を行い、学生の学修時間の増加・確保に向けた更なる取組を推進されたい。 また、授業評価アンケートの実施にとどまらず、アクティブ・ラーニングの実施を通じた学生の態度の変容を測る指標についても検討されたい。 	10	<p>【AP事業推進部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学修支援アドバイザーへの研修を実施し、必要な資質・能力の育成を図った(平成30年度新規養成人数26人、総数101人)。研修受講後の同アドバイザーは、授業内外における他の学生への学修支援、「授業ピアレビュー(授業改善に資する意見提供を目的とした授業参観)」並びに教員・職員と教育改善について意見を交わす「教育改革ミーティング」への参加等を通じて、学修支援者としての力量や意識を向上させた。学期末には、アドバイザー担当教員との活動振り返り面談を実施し、関係学生自身の成長を確認する機会とした。 アクティブ・ラーニングの成果を可視化するとともに、学生の成長を測る指標の1つとして、「アクティブ・ラーナー自己評価ルーブリック」を導入し、31年度からはキャリア・ポートフォリオ・ブックのシートとして配付し、期初面談で活用することを決定した。これにより、学生は自らの学修に向かう態度を振り返りながら成長を確認できるとともに、チューターは学生の成長・変容について観察、面談等に活用することが可能になる。 <p>【総合教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの分析により、全学共通教育における主体的学びの姿勢が格段に向上し、授業外学修時間の増加及び総合的な授業満足度の向上が認められた。引き続き、同アンケートを実施するとともに、学生の学修時間の増加・確保につながる有効な手法について検討を続ける。 <p>http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/general-education/03-classevaluation.html</p> <ul style="list-style-type: none"> 初年次教育科目「大学基礎セミナー」において、30年度前期末に、ルーブリックを用いた自己評価を行った(回収率92%)。この分析により、発信力(口頭発表、文章表現、討議など)に苦手意識を持つ学生が多いという結果が得られた。31年度は当該科目の開始時と終了時にルーブリックによる調査を行い、学修成果として学生が身に付けた力の評価と検証に努める。
【英語力の全学的な養成】(No.24) [3]			

区分	【課題・意見が付された項目】(小項目番号) [委員会評価] 課題・意見	掲載頁	各関係部局等における対応状況
	<ul style="list-style-type: none"> TOEIC や TOEFL の 450 点以上の到達者割合が目標を達成していることは評価できるが、学外実習と試験日が重なった影響等により、受検率が平成 28 年度から低下しているため、受検率や得点の向上を目指して、更なる取組を推進されたい。 	11	<p>【総合教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC の受検率向上を目指し、必修科目の単位認定要件として TOEIC-IP の受検を課した。また、各キャンパスにおいて、前・後期各 2 回ずつ TOEIC-IP の実施日を設けることにより、より受検しやすい体制を整えた。 得点の向上を目指す取組として、授業時間内の TOEIC 受検を意識した学修指導に加えて、主体的な学修を促す e ラーニング教材の充実を図った。併せて、以下の対策を講じた。 <ul style="list-style-type: none"> e ラーニング教材の活用方法や習熟度別学習方法をまとめ、教学ポータルに掲示した。 31 年度からは「TOEIC 学習シート」を作成し、受検状況や得点、目標、学習方法などを記録してキャリア・ポートフォリオ・ブックに綴じ込む方式を採る。学習状況を振り返りながら目標を設定することにより、学習意欲と得点の向上を目指す。
【社会的評価を有する審査・試験の積極的な活用による学修成果の検証】(No.30) [3]			
	<ul style="list-style-type: none"> 国際文化学科において、TOEIC700 点以上の到達者割合は目標を達成しているが、前年度を下回っており、得点力向上に向けた更なる取組を推進されたい。 <p>また、中級バイオ・上級バイオ技術者試験合格率も、前年度実績を下回っていることから、合格率低下の要因を分析して対策を講じるとともに、受検指導を強化し、中期目標の達成に向けて取組を強化されたい。</p>	12	<ul style="list-style-type: none"> 国際文化学科において、学科専門外国語の「英語」の中に高い英語能力を持つ学生を対象としたクラスを設け、3、4 年次生用の「Intensive English」を「英語」への読替として 1、2 年次生にも開放し、得点力の向上に努めた。 生命環境学部において、複数のバイオ関連科目（講義・演習等）で、中級バイオ・上級バイオ技術者試験対策を講ずるとともに、受検を促した結果、受検申込者数が前年度より増加した。引き続き、合格率の向上に努める。(29 年度 47 人、30 年度 74 人)
【経営学分野の機能強化】(No.36) [3]			
	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの更なる充実により、経営管理研究科の魅力向上を図るとともに、修了生等から意見を聴くなど、その改善に努め、ますます存在感を高めるよう努められたい。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 経営管理研究科において、今年度から正課内授業に加え、横山研究科長による特別講座など 3 つの単位外授業を開講した。また、正課内授業においても海外の大学教員を講師として迎え、公開講座と位置づけて実施した。今後も、教育課程の充実とともに特別講座を組み合わせ、教育内容の更なる充実を図る。

区分	【課題・意見が付された項目】(小項目番号) [委員会評価] 課題・意見	掲載頁	各関係部局等における対応状況
教育	【海外留学等の促進】(No.40) [4]		
	<ul style="list-style-type: none"> 海外留学の教育効果を確認するため、引き続き、効果検証に取り組まれない。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 留学の成果の検証について、引き続き、留学前後の TOEIC 受検や留学後に「留学報告書」等の提出を義務付けるとともに、それ以外の客観的に測定する手法について調査研究を進めている。
	【就職支援】(No.48) [4]		
<ul style="list-style-type: none"> 庄原キャンパスについては、キャリアセンター利用率と満足度が他のキャンパスと比べて低くなっており、学部の実態を踏まえた上で、学生の利便性や満足度を高める仕組みを工夫されたい。 	13	<ul style="list-style-type: none"> 庄原キャンパスにおいて、学生のキャリアセンター利用を促進するため、教学課職員がキャリアセンター資料室に定期的に駐在し、学生の疑問や質問に確実に対応できる環境づくりに取り組んだ。 キャリアセンター長が定期的に(時期によっては随時)、庄原キャンパスを訪問し、キャンパス間の連携を強化した。また、支援が必要な学生に対して、学部教員がキャリアセンターの利用を促すなど、学部教員との連絡・情報共有を密にする取組を継続した。 就職ガイダンスの内容を見直し、業界研究やインターンシップ関連講座を増やすとともに、ミニガイダンス(業界セミナー、キャリアサポーターによる座談会等)を実施した。 	
研究	【共同・受託研究の積極的受入】(No.58) [3]		
	<ul style="list-style-type: none"> 外部資金の獲得については、前年度と比較すれば、年間獲得総額が減少しており、科学研究費補助金の申請率の向上や、大学のシーズと産業界のニーズとのマッチングを通じた受託研究・共同研究の促進などにより、引き続き、外部資金獲得に努められたい。 	14	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携センターにおいて、研究計画に基づいた研究費積算方法など、妥当な研究費提示方法を企業に示し、1研究当りの単価向上を目指した。また、教職員向けの「産学連携FDセミナー」を実施し、産学連携に必要な考え方について説明した。 「研究助成金マッチング支援システム」を運用し、教員に外部資金に関する情報提供を行った。 5つ目のプロジェクト研究センターとなる「防災社会システム・デザインプロジェクト研究センター」を設置し、防災に関する国庫補助金の申請支援を行った。 各学部・学科において、複数課題への応募や「科研費研究計画調書閲覧制度」の利用、科研費研究計画調書の応募者間相互確認を行うなど、採択率の向上を目指す取組を促進した。
大学運営	【外部資金の獲得】(No.84) [3]		
	<ul style="list-style-type: none"> 外部資金の獲得については、前年度と比較すれば、年間獲得総額が減少しており、科学研究費補助金の申請率の向上や、大学のシーズと産業界のニーズとのマッチングを通じた受託研究・共同研究の促進などにより、引き続き、外部資金獲得に努められたい。【再掲58】 	17	<ul style="list-style-type: none"> 前項 (No.58) に記載のとおり。

区分	【課題・意見が付された項目】（小項目番号）[委員会評価]課題・意見	掲載頁	各関係部局等における対応状況
【資産の適正な管理】（No.88） [3]			
	<ul style="list-style-type: none"> 資産管理に当たっては、契約書管理の徹底や職員研修を通じた人材育成などの改善策が講じられているが、引き続き適正な管理に努められたい。 	17	<ul style="list-style-type: none"> 財務課において引き続き、契約書管理を行った。また、資産管理の重要性を再認識し、実務に活かすため、本学監査法人公認会計士を講師に迎え、全キャンパスの資産担当者及び会計担当者並びに管理職を対象とした、実務に即した資産管理に関するセミナーを9月に行うなど、資産の適正管理に向けた対応を継続的に実施した。
【危機管理・安全管理】（No.93） [2]			
	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の実施は危機事案発生時に迅速に行動するために重要であることから、毎年度早期に計画を立て、3キャンパスで確実に実施されたい。 	17	<ul style="list-style-type: none"> 消防法・消防計画の周知・徹底を図り、庄原キャンパスにおいては、30年度訓練を前期期間中に（学生寮では6月に、その他の施設では7月）実施した。なお、広島及び三原キャンパスにおいては、11月初旬に実施した。